

Title	経済学関係文献目録(昭和二十八年一月-七月)
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1954
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.47, No.1 (1954. 1) ,p.99- 108
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19540101-0099">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19540101-0099</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

$$\sum w_{zz} = \alpha \sum w_z + \beta \sum w_{zz}$$

で與えられる。比較的高率の標本抽出が行はれた個人には低いウェイトが與えられる。 $w_z$  の平均値も亦加重平均になる。 $\beta$  の標淮誤差は

$$S_w = \sqrt{\frac{\sum w(z_i - \bar{z})^2}{\sum w(z_i - \bar{z})^2}}, S_w = \sqrt{\frac{\sum w(z_i - \alpha - \beta z_i)^2}{\sum w_i}}$$

となる。重相関の場合にも同様の推論をすることができる。

最後に觀察の単位期間を短かくした場合に起る效果を考える。四半期の資料をとれば年間の資料をとるよりも多くの標本が得られることは確かであるが、四倍の數の自由度が得られるとは限らない。四半期又は月別の資料を使う際には、ラグを置いた變數の間に一層大きなラグとより多くのパラメーターを置く必要が起る。(2) 第二に季節變動を加味しなければならない。例えは

$$y_t = \alpha_0 + \alpha_1 y_{t-1} + \alpha_2 z_t + u_t$$

なる式を四半期に區切つた場合には、

$$y_t = \beta_0 + \beta_1 y_{t-1/4} + \beta_2 y_{t-1/4} + \beta_3 y_{t-3/4} + \beta_4 y_{t-5/4} + \beta_5 y_{t-1/4} + \beta_6 y_{t-1/4} + \beta_7 y_{t-1/4} + \beta_8 y_{t-1/4} + u_t$$

$$u_t = r_{1/4} - y_{t-1/4} + r_{2/4} - y_{t-1/4} + r_{3/4} - y_{t-1/4} + r_{4/4} - y_{t-1/4} + v_t$$

なる式が必要となる。但し  $r_{1/4} \dots r_{4/4}$  は夫々春夏秋冬を示す指標で夫々の時期にこの値が 1 とおかれ、他の時期には 0 とおかれ

る。年単位における一期のラグは、これ等種々のラグの平均であると見ることができる。

以上が附錄を除く本書の大要である。個々の點で特に新しいものを加えたと云うことは餘り多くはないが、計量經濟學に関する高等な教科書として推奨に値するであろう。それはこの種の著作が今まで餘り見られなかつたことと、技術面に重點を置きながらも、經濟學的意味を念頭において解説を進めている點にある。ティントナーの著作よりも平易であると共に經濟學的であると云えよう。勿論そう云つても、本書を讀むには初步の數理統計學と、最近の計量經濟學の「經濟學的な」理論との知識を前提とするわけで、初學者が直ちに讀み得ると云つた程度のものではない。云わば専門家のための教科書であるが、わが國においてもこの様な類書が著されたならば斯學の發達のために裨益するところが少くないであろうと思われる。

——二八・九・二八——

## 經濟學關係文獻目錄 (昭和二十八年一月—七月)

- 理 論 (學說史・經濟思想)
- \* 現代經濟の焦點 ベガルトラン・ノロ著 久保田明光譯 (文庫クセジユ) B6 一四四頁 一二〇圓 白水社
  - \* 貨幣論 新庄博著 (岩波全書) B6 二九〇頁 二三〇圓 岩波書店
  - \* 經濟學史 出口勇藏編 A5 四七〇頁 五五〇圓 ミネルヴァ書房
  - \* 經濟學 (上) ジョン・イートン著 橋山正彦譯 B6 二七六頁 二七〇圓 新評論社
  - \* サムエルソン經濟學講義 (上) 川田壽著 A5 二四〇頁 三和書房
  - \* 現代的獨占資本 勞働研究協會著 立井海洋譯 B6 二七八頁 三〇〇圓 三一書房
  - \* 消費・貯蓄・雇用 ヘイズ著 汐見三郎他譯 A5 三〇八頁 四二〇圓 同文館
  - \* ケインズ貨幣論 (3) ケインズ著 鬼頭仁三郎譯 A5 東洋經濟新報社
  - \* 經濟計畫 (經濟學新大系6) 山田雄三著 A5 二五四頁 三三〇圓 河出書房
  - \* 經濟自立論 高田保馬著 B6 一二二頁 二二〇圓 東洋經濟新報社
- 社會思想研究會出版部
- \* マルクス經濟學的研究 有澤廣巳他編 (大内兵衛先生還暦記念論文集上) A5 二八〇頁 四三〇圓 岩波書店
  - \* 自由放任の終焉 J.M.ケインズ著 山田文雄譯 (現代教育文庫) A6 一一八頁 六〇円
  - \* 經濟學いかに學ぶべきか 基礎理論篇 岸本誠二郎、迫間真治郎共編 A5 二四六頁 二八〇圓 東洋書館
  - \* 近代經濟學史 杉本榮一著 (岩波全書) B6 一三三頁 二八〇圓 岩波書店
  - \* 原典スマス「國富論」解説 高島善哉著 A5 四〇八頁 四五〇圓 春秋社
  - \* 古典派經濟學 末永茂喜著 A5 三三六頁 三六〇圓 東京大學出版會
  - \* ケインズ貨幣論 (5) 鬼頭仁三郎譯 A5 二九二頁 三五〇圓 同文館
  - \* 經濟學いかに學ぶべきか 特殊問題編 岸本誠二郎・迫間眞有斐閣

三田學會雑誌 第四十七卷 第一號

一〇〇 (一〇〇)

- \* 治郎共編 A5 二二六頁 二八〇圓 東洋書館  
 \* 原典ケインズ「一般理論」解説 鹽野谷九十九著 A5 二九四頁 三五〇圓  
 \* 國家と經濟－經濟學の基礎－ 難波田春夫著 二三三頁 三八〇圓  
 \* 八〇圓  
 \* 實踐經濟學 ピグウ著 前田新太郎譯 B6 一三八頁 二〇〇圓  
 \* 講談社  
 \* 動態經濟學 ハロード著 高橋長太郎・鈴木諒一譯 B6 二二八頁 三〇〇圓  
 \* 有斐閣  
 \* 乘數理論と加速度原理 サムエルソン著 高橋長太郎監譯 A5 一一頁 一八〇圓  
 \* 有斐閣  
 \* 經濟學的基本原理 バビー著 平田清明譯 B6 三〇〇圓  
 \* 有斐閣  
 \* マルクス價値論の研究 杉山清著 A5 三九二頁 四三〇圓  
 \* 有斐閣  
 \* 經濟變動論講義要綱 岩井良太郎著 A5 一一四頁 一四〇圓  
 \* 同文館  
 \* 經濟學より見たる補完的均衡論 後藤文利著 A5 一六八頁 三〇〇圓  
 \* 東洋經濟新報社  
 \* 價格伸縮性と雇傭 ランゲ著 安井琢磨・福岡正夫譯 A5 二七一頁 二六〇圓  
 \* 大同書院  
 \* 有斐閣  
 \* 經濟學入門 高橋正雄著 B6 二七一頁 二六〇圓  
 \* 有斐閣  
 \* 經濟原論 楠崎敏雄著 A5 二二五頁 二八〇圓  
 \* 東洋經濟新報社  
 \* 有斐閣  
 \* 田貫一譯(國民文庫) A6 一四二頁 五〇圓  
 \* 創洋社  
 \* 有斐閣  
 \* 日本資本主義論争史 下 小山弘健編(青木文庫) A6  
 \* 青木書店  
 \* 三五四頁 一四〇圓  
 \* 資本主義・社會主義の基本的經濟法則 ヴイコッギー著  
 \* ソ  
 \* ヴエト經濟研究會譯 B6 三八四頁 三五〇圓  
 \* 新興出版社  
 \* 有斐閣  
 \* ソ同盟における社會主義の經濟的諸問題 スターリン著 民主主義科學者協會譯編(青木文庫) A6 三八九頁 一五〇圓  
 \* 青木書店  
 \* 有斐閣  
 \* ソ同盟における社會主義の經濟的諸問題 スターリン著 飯田貫一譯(國民文庫) A6 一四二頁 五〇圓  
 \* 総計

- \* 證券市場論講義 平山亮太郎著 B6 一六二頁 一五〇圓 新紀元社  
 \* 貿易と保險及海運(貿易講座) 中井省三著 A5 一七〇頁 二八〇圓 實業之日本社  
 \* 信用創造理論の研究 薩健一著 A5 三四八頁 四〇〇圓 關書院  
 \* 海上保險事務入門 前田加一郎著 B6 二四六頁 二八〇圓 東洋經濟新報社  
 \* 有斐閣  
 \* 租稅概論(改訂) 小林幾次郎著 A5 一九〇頁 二六〇圓 三和書房  
 \* 金融論(經濟學ハンドブック) 中谷實編 A5 一四四頁 一六〇圓 海文堂  
 \* 財政學講義 神戸正雄著 A5 四六〇頁 六二〇圓 有斐閣  
 \* 外國爲替通論 谷口吉彦著 A5 三八四頁 四二〇圓 高文社  
 \* 戰後の國民所得 經濟審議廳調查部國民所得課編 A5 二六頁 二〇〇圓 千倉書房  
 \* 共著 A5 三三四頁 四五〇圓 學陽書房  
 \* 北海道の經濟と財政 西尾幸三著 A5 三五六頁 三五〇圓 東洋經濟新報社  
 \* 計算價格論 土岐政藏著 A5 三九六頁 四八〇圓 千倉書房  
 \* 保険研究 白杉三郎著 A5 三四八頁 四八〇圓  
 \* 經濟學關係文獻目錄
- 一〇一 (一〇一)

- \* 商業經濟新論 鈴木保良著 A5 三一四頁 四五〇圓 泉文堂

\* 經營能率の指導記録 ワラス・クラーク著 上野しげ譯 技報堂

B6 二八四頁 二五〇圓

\* 公益企業經營論(上) E.W.クレメンズ著 竹中龍雄監譯 A6 五三六頁 九〇〇圓

\* 經營經濟學總論 魏井辰雄著 A5 二四〇頁 二八〇圓

\* 經營經濟學總論 魏井辰雄著 A5 二四〇頁 二八〇圓

\* 内部統制の立案と實施 野村信夫他著 B6 二三八頁 二〇〇圓

評論社

\* 二〇〇圓

\* 近代的經營組織の實例 ダイヤモンド社編 A5 五六六頁 二八〇圓

評論社

\* 企業形態論(全訂新版) 國弘員人著 A5 三〇〇頁 二〇〇圓

泉文堂

\* 損益計算(經理・經營學新書) 田島四郎監修 B4 一四〇〇圓

評論社

\* 八頁 一〇〇圓

\* 國營企業論(増補) 竹中龍雄著 A5 二八四頁 三八〇圓

岩崎書店

\* 經營要論(新版) 増地庸治郎・古川榮一共著 B6 二三〇頁 二〇〇圓

泉文堂

\* 二七四頁 二九〇圓

\* 商品學概論 吉岡幸作著 A5 三二〇頁 四〇〇圓

岩崎書店

\* 工業簿記提要(新訂版) 吉田良三・田島四郎共著 A5 二二四頁 三八〇圓

岩崎書店

\* 二七四頁 二九〇圓

\* 會社稅務の收入と經費 佐藤和雄著 A5 一五八頁 一八〇圓

岩崎書店

\* 會社稅務(新訂版) パレウスキーキ著 岡野眞譯(文庫クセジユ) 同文館

岩崎書店

\* 二七四頁 二九〇圓

\* 會社稅務の收入と經費 佐藤和雄著 A5 一五八頁 一八〇圓

岩崎書店

\* 二七四頁 二九〇圓

\* 稅務經理協會

\* 資產評價論 木村重義著 A5 三一四頁 三八〇圓

泉文堂

\* 經營勞務管理論(增訂版) 池内信行著 B6 二八六頁 三三〇圓

泉文堂

\* 經營勞務管理論(增訂版) 森五郎著 B6 三三〇頁 三五〇圓

泉文堂

\* 計數管理 中小企業廳編 B6 二二四頁 二五〇圓

泉文堂

\* 經營分析 國弘員人著 B6 三五八頁 五六〇圓

泉文堂

\* 最新銀行簿記 河合慶一著 A5 二二四頁 二五〇圓

泉文堂

\* 配給論(經理・經營學新書) 田島四郎監修 B4 一四八頁 一〇〇圓

泉文堂

\* 會社會計基準序説 ベイント、リトルトン著 中島省吾譯 A5 二七八頁 三八〇圓

森山書店

\* 企業會計理論 植野郁太著 A5 二九五頁 三七〇圓

森山書店

\* 商業計算論2(經理・經營學新書) 田島四郎監修 B4 一六〇頁 一〇〇圓

評論社

\* 協同組合企業組合の經理實務 播久夫著 A5 二七一頁 二〇五頁 一〇〇圓

培風館

\* 簿記會計重要用語辭典 澪川祐治他著 B40 二〇五頁 一〇〇圓

培風館

\* 新らしい銀行簿記 村瀬玄著 A5 一八二頁 二〇〇圓

中央經濟社

\* 商業通信文 同志社大學商業實務研究會編(商業實務研究シリーズ) B6 二五〇頁 一八〇圓

中央經濟社

\* 中小會社經營簿記要領と解説 高橋勝一・松井靜郎・坂田武雄共著 B5 二三〇頁 三〇〇圓

中央經濟社

\* 商業政策概論 平野常治著 A5 三三七頁 四五〇圓

三和書房

\* 近代的經營における人間問題 野田信夫著 A5 四五〇頁

ダイヤモンド社

\* 六五〇圓

\* 現代監查論(上) 佐藤孝一著 A5 二九一頁 二九〇圓

白桃書房

\* 會計學研究 太田哲三著 A5 四七八頁 六〇〇圓

ダイヤモンド社

\* 稅務と會社監査 佐野賀一著 A5 三〇五頁 三七〇圓

日本稅經研究會

\* 複式簿記の實在論的理論 スガムチニ著 岡本愛次・尾上 有斐閣

\* 忠雄譯 A5 一六四頁 二〇〇圓

\* イギリス勞動運動史(2) G.D.H.コール著 林健太

\* 生活水準(經濟學新大系5) 森耕二郎著 A5 一九二頁

岩波書店

\* 紡績生產費分析 守屋典郎著 A5 二九四頁 四五〇圓

森山書店

\* 貨銀形態論 古林喜樂著 A5 三四〇頁 三八〇圓

森山書店

\* 繼業管理 松本雅男・畠山芳雄著 A5 五九五頁 九五〇圓

税務經理協會

\* 近代經營と經營財務 日本經濟學會編(經營學論集24) A5 四二九頁 六〇〇圓

ダイヤモンド社

\* 經營經理の諸問題 神戶大學經濟經營研究所編 B5 一九九頁 三二〇圓

森山書店

\* 紡績生產費分析 守屋典郎著 A5 二九四頁 四五〇圓

森山書店

\* 繼業管理 松本雅男・畠山芳雄著 A5 五九五頁 九五〇圓

税務經理協會

\* アメリカ労働者の生活狀態 シア・ベーリフ著

勞働・社會政策



- \* 調整に悩む世界經濟 東京銀行調査部譯 (國際決済銀行第二回年次報告一九五一—一九五二) B6 三七一頁 五五〇圓
- \* ソ連農業の發展 附 米ソ兩國の農業勞働生産性 實業之日本社スキ一著 小西善次譯 A5 三六一頁 五五〇圓
- \* 國際經濟入門 波多野鼎著 (入門經濟學叢書) A6 三〇〇頁 一〇圓
- \* ウォール街 小椋廣勝著 (青木文庫) A6 三〇〇頁 一〇圓
- \* 貿易概論 上坂西三著 A5 三〇八頁 四〇〇圓
- \* 資本主義國間對立の激化 世界ニュース社編譯 B6 二三〇頁 九〇圓
- \* 現代貿易新譯 白石孝著 B6 二三〇頁 二六〇圓
- \* ソ連とアメリカ ソロキン著 岡本順一譯 B6 三一〇頁 三二〇圓
- \* アジア經濟の概觀 國際連合編 經濟審議廳譯 A5 三五〇頁 五〇〇圓
- \* 資本主義世界經濟論 上 柴田敬著 A5 三三七頁 四〇〇圓
- \* 國際通貨 ヌルクセ著 小島清・村野孝譯 A5 四〇〇頁 五五〇圓
- \* 恐慌と軍事經濟 守屋典郎著 A5 三六二頁 四五〇圓
- \* 日本經濟の構圖 板垣與一編 B6 一七〇頁 一五〇圓
- \* スターリン全集 (9) スターリン全集刊行會譯 B6 四二六頁 四八〇圓
- \* スターリン全集刊行會譯 B6 四二四六頁 三四〇圓
- \* 民族自決權について他十篇 レーニン著 川内唯彦他譯 (國民文庫) A6 二〇六頁 七〇圓
- \* スターリンの國 フエルナン・グルニエ著 青木峯夫譯 B6 四二四六頁 二二〇圓
- \* イギリス解放とイギリス共產黨 ハリー・ボリット著 大橋伸一譯 B6 一九二頁 一八〇圓
- \* マルクス・エンゲルス二卷選集 マルクス・レーニン主義研究所譯 A5 五二〇頁 六五〇圓
- \* 第十四回協議會と大會の報告 スターリン著 大月書店、三六頁 四八〇圓
- \* (國民文庫) A6 一二二頁 九〇圓
- \* 矛盾論研究 (毛澤東選集) 毛澤東選集刊行會譯 B6 二二四頁 二二〇圓
- \* マルクス・エンゲルスマルクス主義 (3) レーニン著 萩原秀夫譯 大月書店
- \* 第十四回協議會と大會の報告 スターリン著 国民文庫社 B6 二二二頁 九〇圓
- \* (國民文庫) A6 二二二頁 九〇圓
- \* レーニンについて スターリン著 スターリン全集刊行會譯 (國民文庫) A6 一一六頁 五〇圓
- 國文社 資料社 前野書店 泉文堂 日月社 青木書店 御茶の水書房 如水書房

## 社會思想

- \* 民主主義革命における社會民主黨の二つの戰術 レーニン著 新田禮二譯 (國民文庫) A6 一九八頁 八〇圓
- \* 解說 共產主義における左翼小兒病 エヌ・ウエ・トロプキン著 知識文庫刊行會譯 (知識文庫) B6 小一〇六頁 八〇圓
- \* スターリン全集 (9) スターリン全集刊行會譯 B6 四二六頁 四八〇圓
- \* スターリンの國 フエルナン・グルニエ著 青木峯夫譯 B6 四二四六頁 三四〇圓
- \* ソ連と軍事經濟 守屋典郎著 A5 三六二頁 四五〇圓
- \* 共產主義・ファシズム・民主主義 ハイマン著 屋弘共譯 (現代教養文庫) A6 三二四頁 一三〇圓
- \* 社會變動論 小松堅太郎著 A5 三四二頁 二六〇圓
- \* 社會經濟學 (增補) 園田實著 A5 二八五頁 三六〇圓
- \* 变革期における人間と社會 (上) マンハイム著 福武直譯 B6 二八六頁 三〇〇圓
- \* 社會概論 藏田數太著 A5 二五三頁 三五〇圓
- \* 社會經濟學 (増補) 園田實著 A5 二八五頁 三六〇圓
- \* 日本資本主義と民族問題 上林貞治郎著 B6 三八四頁
- \* 三二〇圓
- \* 共產主義・ファシズム・民主主義 ハイマン著 土屋清・土屋弘共譯 (現代教養文庫) A6 三二四頁 一三〇圓
- \* プロレタリア革命と背教者カウツキ一他七篇 レーニン著 平澤三郎譯 (國民文庫) A6 二一八頁 二〇〇圓
- \* スターリン全集 (1) スターリン全集刊行會譯 B6 一八頁 四八〇圓
- \* ソヴェト同盟共產黨第十九回大會議事錄 ソヴェト研究者協會編譯 B6 六〇二頁 四八〇圓
- \* 現代帝國主義論 レオンチエフ、ルビンシュタイン著 社會經濟調査所譯 B6 四四〇頁 三六〇圓
- \* 自由主義思想十講 (下) 社會思想研究會編 (現代教養文庫) A6 二〇四頁 八〇圓
- \* コージン著 細川廓直譯 B6 二二四頁 二〇〇圓
- \* 社會思想講話 北澤新次郎著 B6 三一〇頁 二八〇圓
- \* 資本主義の基礎法則 (經濟學講座 补卷) 宮川實著 (青木文庫) A6 三九七頁 一六〇圓
- \* 資本論の辯證法的根據 (改訂版) 梶明秀著 B6 二八八頁 三二〇圓
- \* ソ同盟共產黨小史 ソ同盟共產黨中央委員會所屬特別委員會編 マルクス・レーニン主義研究所譯 (國民文庫) A6 二八四頁 一二〇圓
- \* ボリシェヴィキ黨の建設 スターリン著 スターリン全集刊行會譯 (國民文庫) A6 二三四頁 一〇〇圓
- 國文社 社會書房

三田學會雑誌 第四十七卷 第一號

一〇八 (一〇八)

青木書店

年鑑・辭書・資料

\* 日本經濟年報(77)昭和28年度第1集 東洋經濟新報社編  
B6 三一八頁 二三〇圓 東洋經濟新報社編

\* 中國經濟年報(1)一九五二年一月一十二月 中國研究所編  
B6 三一八頁 二三〇圓 東洋經濟新報社編

\* 世界經濟年報 一九五二年第四・四半期 世界經濟研究所編  
B6 二四四頁 二〇〇圓 大月書店

\* 日本經濟年報(78)昭和28年・2 東洋經濟新報社編  
B6 三〇八頁 二〇〇圓 大月書店

\* 日本經濟年鑑 昭和二十八年版 日本經濟新聞社編 B5  
六五八頁 一二〇〇圓 日本經濟新聞社編

\* 日本經濟年報 昭和二十八年第三集 東洋經濟新報社 B6  
B6 三〇八頁 二〇〇圓 大月書店

\* 日本經濟四季報 一九五二一五年三月特集 日本經濟調查  
會編 B6 三七一頁 二五〇圓 大月書店

\* 中國經濟年報 一九五三年第一・四半期一一三月 世界經濟  
研究所編 B6 二七九頁 二五〇圓 大月書店

\* 世界經濟年報 一九五三年第一・四半期一一三月 世界經濟  
研究所編 B6 二七九頁 二五〇圓 大月書店

- \* レーニン傳 マルクス・エンゲルス・レーニン研究所 内村有  
三譯(國民文庫) A6 二三六頁 一〇〇圓 國民文庫社
- \* 社會思想史入門 井伊玄太郎著(要選書) B6 一八四頁  
一七〇圓
- \* スターリン全集13 スターリン全集刊行會譯 B6 四五〇  
頁 四八〇圓
- \* 社會主義社會思想發展の歴史的背景 桑曾義夫著 B6 二  
八八頁 三〇〇圓
- \* レーニン・スターリン革命的議會主義 山邊健太郎編 B6 二  
二〇三頁 一八〇圓
- \* 資本主義・民主主義・共產主義 北澤新次郎著(早稻田選  
書) B6 一七七頁 一六〇圓 早稻田大學出版部
- \* 農業問題と「マルクス批判家」 レーニン著 谷村謙作譯  
A6 二五四頁 一〇〇圓 國民文庫社
- \* ソ同盟共產黨第十九回大會一般報告 マレンコフ著 本間七  
郎譯 A6 一二四頁 五〇圓 國民文庫社
- \* 中國共產黨の三十年 胡喬木著 尾崎庄太郎譯(國民文庫)  
A6 一三六頁 六〇圓 國民文庫社
- \* 史的唯物論―新科學の基礎― 山田坂仁著 B6 一七二  
頁 一三〇圓 新科學社
- \* 共產主義の系譜(増訂版) 猪木正道著(角川文庫) A6  
三〇一頁 一〇〇圓 角川書店
- \* レーニン・スターリン・社會主義經濟建設論(下) 中共幹部  
必讀文獻編集委員會編 石堂清倫譯 B6 六三四頁 六〇  
〇圓 五月書房
- \* 中國革命論 スターリン著 平澤三郎・松本激譯(國民文庫)  
A6 二四六頁 一〇〇圓 國民文庫社
- \* 日本資本主義論争史(上) 小山弘健編(青木文庫) A6

編輯後記

わが國が國家社會の一員として復歸するようになつてから、經濟學界においても歐米の諸學者とわが國の經濟學者との間の交流が次第に盛んになつてきただようである。この傾向は戰爭前の時代よりも一層著しく、今後においてはさらに發展をみると期待される。しかるにわが國の各種の經濟學研究機關が發行している研究雜誌には國際的な交流の便宜が決して十分でなく、雜誌に掲載される幾多の尊重すべき論説が他國の學者の眼に觸れることないままに放擲されるものの多いことは、まことに殘念である。日本語の非國際性が交流を妨げる大きな理由になつてゐることは、容易に推察されるところであるが、しかしわれわれとしてもこの障害を乗り越えて國際的交流に努める熱意に缺けるものがありはしないであろうか。國際的交流に努める熱意に缺けるものがありはしないであろうか。

山來、わが國の經濟學研究は他の社會科學部門におけると同様に

主として歐米諸國の學説の輸入紹介を基礎にして發達してきたものであるが、現在においては、すでに攝取すべきものを攝取し、排すべきものを排するほどの素養と能力とを相當に備えているものと考

えられる。したがつて、今後わが國の研究の多くが外國の多數の學

者の眼に觸れ、相互に刺戟と新知識を頒ちあうことができるよう

に努力することは、ひとり日本の學問のために貢献するばかりでなく、國際的な貢献を意味するであらう。長い傳統を有する本誌に、このような國際的價値を帶びさせることは、私の大きな希望である。

(氣賀健二)

第四十七卷  
第一號 定價 七〇圓  
昭和二十八年十二月二十五日印刷  
昭和二十九年一月一日發行

第一號 送料 八圓

編集兼

發行所

東京都港區芝三田慶大經濟學部

東京都港區芝三田慶大經濟學部研究室

圖書印刷株式會社

川口芳太郎

東京都港區芝三丁目

一年分 金八四〇圓(送料共)

半ヶ年分 金四二〇圓(〃)

豫約購讀料

發行所

慶應義塾經濟學會